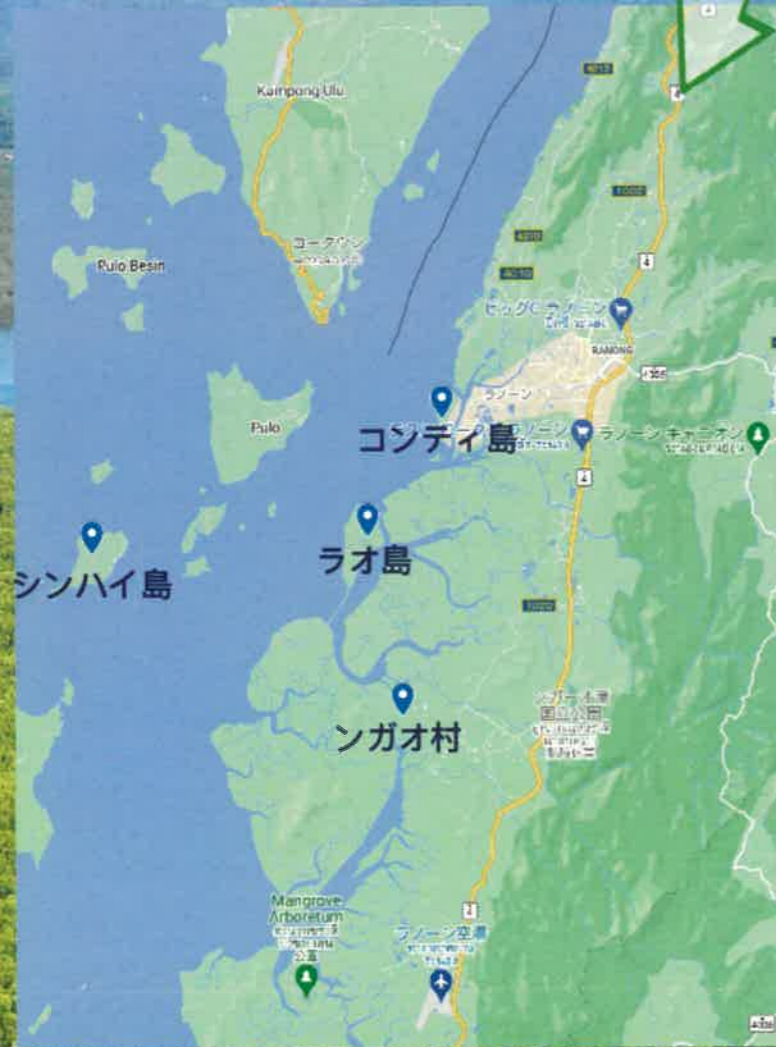


タイのオイスカプロジェクトと ラノーN連プロジェクトの事業地



ラノーは首都バンコクから南へ約600km、
アンダマン海に面したタイで一番小さな県で、
最も雨の多い地域といわれています



マングローブの森で 地球を守り 豊かに生きる

日本NGO連携無償資金協力

タイ・ラノー県の
マングローブ林再生を通じた
社会的弱者層生計向上プロジェクト

2021.3.11~2024.3.10

オイスカは、国づくりの基礎は第一次産業をしっかりとやることだと考えます。農村部の人々が衣食住を満たしながら自然とも調和した暮らしを実現できるように、住民とともにそれぞれの地域にある資源を活かしたその地域にふさわしい方法を考え、有機循環型農業の普及や地域産業育成のための活動を展開しています。

公益財団法人 オイスカ

From
the People of Japan



住民主体の マングローブ林再生と 地域産業の振興



持続可能な
環境と暮らしのために
私たちが
取り組むこと

Q:マングローブとは？

A: 熱帯・亜熱帯の汽水域に生えている植物の総称です。体を支える根がユニークで、碇型や筍状など様々です。また、樹に付いたまま芽を出す「胎生種子」によって繁殖する種類もあります。

Q:ラノーでマングローブ林が減少した理由は

A: 錫の採掘やエビの養殖で乱開発されたり、薪炭や入植で無計画に伐採されてしまったことが主な原因とされています。

Q:マングローブ林が大切な理由は

A: マングローブ林は多種多様な生き物が生息し、高潮や強風から陸地を守る自然堤防の機能も持ちます。土壌に大量の炭素を蓄積し、気候変動の緩和策としても注目されています。

Q:プロジェクトのアプローチ方法は

A: オイスカは地域住民と各行政機関や民間団体を繋ぎ、ネットワークを広げることで人々の潜在能力を引出し、住民主体の地域振興をサポートします。



コミュニティ
ワークショップ



苗木づくり

このプロジェクトは、タイ国の森林再生計画と連携した植林活動によりマングローブ林の再生を進めるとともに、マングローブの恵みや地域の特徴を生かした産業を興し、住民の収入向上を図ります。

また、地域の未来を担う子どもたちにマングローブ林の大切さや海洋ごみの問題を伝え、環境保全への理解と関心を深めます。

目標は3年間で32haのマングローブの森づくり、プロジェクトによる10%の収入アップです。マングローブ林は豊かな漁場となり、高潮から陸地を守ります。マングローブに由来する一村一品の製品づくりは、女性やお年寄りの活躍の場にもなります。



お茶づくり



ヤギ飼育

日本NGO連携無償資金協力 事業基本情報

案件名	ラノー県のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト（開発協力事業）
事業地	タイ王国ラノー県ムアン郡の島しょ部および海岸地域（コンティ島、ラオ島、シンハイ島、ンガオ村）
事業期間	2021年3月～2024年2月（3か年）
上位目標	新たな産業の創出によって地域住民の生計が向上する。併せて、地域住民の保全への理解を得てマングローブ林が再生・創出され、その恩恵によって海洋・沿岸環境が改善し、漁業等既存の産業が発展する
現地提携団体	オイスカ・タイ総局、タイ天然資源・環境省、海洋・沿岸資源局、森林局、ラノー県、現地自治体ほか



漁具貸出組合



石けんづくり



植林地の管理作業



小エビの加工



植林



干物づくり